

中部支社

NAGOYA

〒460-0013  
名古屋市中区上三之河1-114番12号  
上丸津ビル  
TEL.(052)331-3371 FAX.(052)331-3374

# 中日本ネットワーク

東海・信越・北陸

北信越支局

NIGATA

〒950-0988  
新潟市中央区片岡4-11-2番23号  
オフィスビル301  
TEL.(025)244-7600 FAX.(025)244-7601

日刊

# 産業新聞

Japan Metal Bulletin

2018年(平成30年)

5月21日(月)

第19473号  
Since 1936

# エムダイヤが環境賞

## 独自の分離・破碎技術

2018年度

【滑川】環境機器メーカーのエムダイヤ(本社=富山県滑川市、森弘吉社長)はこのほど、国立研究開発法人国立環境研究所などが

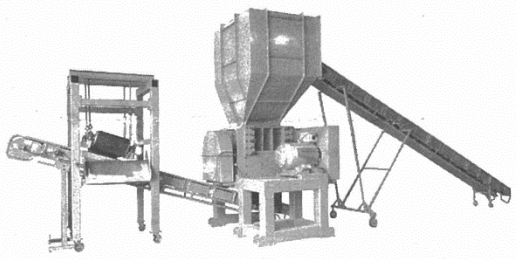
主催する2018年度の環境賞(環境省後援)で優良賞を受賞した。独自に開発した「廃タイヤ等の異素材混合物を削り取る破碎・分離

技術」が、循環型社会の形成など地球環境への貢献が高い技術と評価された。独自開発の技術を組み込んだ主力製品の一

つが「エコセパレ分離・破碎機」。従来型の破碎機は刃で切断するが、エコセパレは微妙に傾きを持たせた回転刃によって削り取る構

造を採用した。これによりタイヤや光ファイバーをはじめとする異素材混合のリサイクル資源を、金属やゴム、樹脂などを高い精度で破碎・分離することが可能。後工程で選別も行う。同社の分離・破碎技術は日本、米国、中国、韓国の4カ国で特許を取得済み。さらに技術革新の都度、追加で特許を取得するほか商標登録も行っている。

産業廃棄物などを分離・破碎するには、破碎機を複数台連結して破碎と分離を繰り返す、さらに選別工程を繰り返す方法が一般的で、リサイクル工程が長くユーザーにとってはその分のコスト負担が大きい。これに対して同社が開発したエコセパレは、粗破碎した後は破碎工程と分離工程を1基で完結できる



エコセパレ分離・破碎機の設備事例

のが特長だ。例えば廃タイヤ。タイヤのゴムの中には太さの異なるワイヤーが

物で引っかくように外側のゴムだけを削り取るため、中のワイヤーだけをきれいに取り出

しながら破碎物の粒径をコントロールし、精度の高い分離まで行う。廃タイヤ以外にも電線ケーブルや廃電子基板、携帯電話、小型家電など様々な異素材混合物のリサイクルにも同社の技術が活用されている。製品供給先は日本だけでなく、今後はリサイクル資源の発生増が見込まれる東南アジアなど海外市場も視野に入れた事業展開を進めている。

数多く含まれている。一般的な破碎機はそのまま廃タイヤを砕くため、ワイヤーにはタイヤのゴムが絡みついたままであることが多くある。同社の技術では刃